

日本経済 アベノミクスのABC

―理念A、内容B、実現C

モルガン・スタンレーMUFEG証券チーフエコノミスト ロバート・アラン・フェルドマン

- *米国の景気は上向き加速
- *物価より失業率重視か
- *心配な欧州、新興国
- *エネルギー技術を海外へ売る
- *2014年度が問題
- *ベースマネーと物価の関係
- *社会保障を削るしかない
- *第三の矢は多くが進んでいない
- *為替、株価とも政策次第
- *すごいビジネスチャンス



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は、皆さんご存じのモルガン・スタンレーMUFEG証券のフェルドマンさんをお迎えいたしました。日本にたいへん長くいらっしやうて、エコノミストとしても高名な方ですのでご紹介の必要もそうないと思いますが、たしか高校生のように日本にいらっしやうたのですね。日本語もたいへん流暢でいらっしやいます。東洋経済からも90年代以降、3冊、本を出されたと思います。

今回、アベノミクスということで経済が少し良くなりました、いよいよ構造改革、成長戦略がこの秋の課題であったわけですが、どうも秘密保護法案のほうに頭が行ってしまって、後退するようないくつかの動きも出てきております。

そういうことも含めて、今日はフェルドマンさんにアベノミクスの問題点、今後の展望についてお話をいただきたいと思えます。それではよろしく願います。（拍手）

フェルドマン ご紹介いただきましたフェルドマンです。本日皆さんに会えることを非常に楽しみにしていました。若干紹介がありましたけれども、簡単な自己紹介をさせていただきますと思います。

今おっしゃったように、高校時代が初来日でした。名古屋の南山高校という南山大学の付属高校にいましたけれども、そのときから日本に恋に落ちたということだと思います。それからずっと40年間勉強させていただいています。なぜこれだけ日本とかかわりたいかという